和洋女子大学文化資料館

The Museum of Wayo Women's University

駒 見 和 夫

創設から今日まで

「和洋女子大学文化資料館」のあゆみは、昭和53年4月、大学内で小さな「資料室」が設けられたことにはじまります。これは、昭和47年からの学園キャンパス内の発掘調査で出土した考古遺物を、展示・公開することが目的でした。この資料室の設置が契機となり、昭和54年4月には博物館学芸員課程が開設されました。

その後、学芸員課程の充実を図るために、館務実習のできる大学博物館の設置が立案され、たんに埋蔵文化財のみでなく、和洋学園が所蔵する各種の資料を公開することも目的に加え、総合的名称の文化資料館が平成4年4月に開館するに至ったのです。当初は大学の1教室を転用した小規模なものでしたが、翌年5月には「博物館相当施設」の指定を得ることとなりました。

以後、転用施設ではなく、博物館としての本格的な施設・設備を備えることが念願であったのですが、大学キャンパスの再開発を機に、建築計画に取り込んでもらうことができました。そして平成13年6月、新築された大学東館の17階において施設・設備を整え、学園史展示・常設展示・企画展示の部門を設けて、新たなスタートをきることとなったのです。

個性的な資料館づくり

従来の大学博物館は、資料の陳列場である場合が多かったようですが、大学を地域に開放しつつある趨勢のもとで、今日では多様なスタイルの大学博物館が生まれてきているようです。文化資料館でも展示方法を工夫して、視覚にうったえるだけではない知覚型展示の実践を計画し、独自のスタイルを作りたいと考えています。それにより、学生・生徒の教育に役立て、社会への学術・文化の還元を試みるとともに、博物館のあり方についても課題を提示していくつもりです。つまり、「博物館を研究する博物館」とも位

置付けているのです。

また、文化資料館では運営や活動の各場面で学生が参加することにより、「学生による市民に向けたミュージアム」であることを目指しています。たとえば、学芸員課程の履修学生が博物館館務実習として、自ら企画を立て資料の収集から設営までを行う企画展や、服飾造形学科の学生による卒業制作の作品を展示する特別展、さらに学生の各種サークル活動を核としたワークショップの開催なども、定期的の実施していきたいと考えています。そうすることにより、文化資料館が学生と社会のパイプの役割を果たすことができたらと望んでいるのです。

展示コーナーには、〈常設展示〉〈企画展示〉〈学園史展示〉〈“風”と出会う〉があります。このうち〈企画展示〉では、小規模なものを含めて年間5～6回の企画展や特別展を計画しており、学生や地域の人々にとって常に気掛かりな存在となることをねらっています。〈“風”と出会う〉は、基準に適った博物館としては日本で最高層に位置していることを生かして、地上約70mからの景観を取り込んだ展示コーナーです。ここでは歴史・文学・自然・癒しの4つをキーワードとして、それぞれの“風”を感じ取ってもらえるような展示を、企画を変えて行います。他にはみられない展示方法ではないかと自負しています。

〈“風”と出会う〉展示コーナー

主要な収蔵品

和洋女子大学のスタートは明治30年に創設された和洋裁縫女学院であり、今年で104年の歴史となります。創設者の堀越千代は、当時の女性のステータスであった裁縫、

KAZUO KOMAMI

和洋女子大学文化資料館 助教授・学芸員

〒277-8533 千葉県市川市国府台 2-3-1

Tel: 047-371-2494

e-mail: komami@wayo.ac.jp

〈専門〉考古学、博物館学

〈趣味〉史跡めぐり

とくに洋裁を中心とした女子教育を推し進め、その伝統は今日にも引き継がれています。そして、長い教育の過程において各種の服飾資料が収集され、同時に優れた作品の数々が学生諸姉によって制作されてきました。これらの服飾資料・作品が収蔵品の1つの核となっています。

クリノリンスタイルのドレス(19世紀後半)

服飾資料の主なものには、幕末から明治・大正にかけての打掛や白無垢、振袖、袴、仕事着のほか、1800年代から1900年代前半にかけての国内外のドレスなどがあります。なかでも旧公爵家の池田美智子氏が着用された1930年代の日本及び英国製の洋装類は、当時の日本人が着用したドレスのコレクションとしては現在唯一のものといわれるものです。また、明治から昭和の戦前にかけて生徒が制作した裁縫雛型や袋物類の作品は、わが国の服装文化の流れを垣間見ることができるとともに、女子教育のあゆみをたどることのできる資料でもあります。

リニューアル・オープン特別企画展
「ハレの装い 和と洋」の洋装コーナー

ほかに、考古遺物と工芸・民具資料も収蔵品の柱となっています。考古遺物は学園のキャンパス内から出土したもので、下総国府と下総国分僧・尼寺に関わる資料です。古代の地方官衙や官寺の様相を知るうえで重要な位置付けもっています。工芸・民具資料の中心は、学芸員課程履修の学生が、1980年ごろから実習の一環として全国各地で収集してきた郷土玩具で、約2000点にのぼるコレクションです。収集品のなかには、現在では作られなくなり、ほとんど見るできないものも少なくありません。

学生による「民具展」の設営

以上、概要を簡単に紹介してきましたが、文化資料館はリニューアルし、再スタートをきったばかりです。学生や地域の人たちを取り込んだ企画展やワークショップの開催など夢は膨らむのですが、人員や予算が思うようにならず、実現には多くの困難が伴いそうです。

一方で学生のなかに、資料館の活動・運営に対して意見やアイデアを自ら訴えてくるものが現れはじめました。「学生による市民に向けたミュージアム」への手ごたえを少し感じはじめています。

多少の困難があろうとも夢の実現を目指し、個性的な資料館をつくっていきたいと考えています。

〔場所〕千葉県市川市国府台2-3-1(TEL:047-371-2494)

〔交通〕JR市川駅からバス8分、和洋女子大前下車

京成国府台駅から徒歩10分

〔開館〕平日:10時~16時30分、土曜日:10時~12時

〔ホームページ〕<http://www.wayo.ac.jp>